

市 民 交 流 課

○ 男女共同参画関係

1 男女共同参画啓発記事掲載事業

男女共同参画に関して広く市民に情報発信するため、公募市民5人の企画編集による「めざそや！共同参画」を広報いせへ4回掲載した。

(1) 編集会議

4月～3月まで21回の編集会議

(2) 内 容 広報いせ1ページ分

掲載月	内容
8月号	①コーチングでコミュニケーション ②最近はやりの婚活って？ ③はじめまして！「めざそや！共同参画」です
10月号	①メディアが変わると、社会が変わる ②高齢化社会をどう生きる？ ③思いは、話さないと伝わらない
12月号	①「すべき」「あるべき」にとらわれないで！ ②今どきの若者の結婚観は？ ③楽屋でおしゃべり
2月号	①パパ料理で、みんな幸せ ②自治会を活性化するには？ ③育メン市長

2 男女共同参画推進都市事業

(1) 男女共同参画推進事業委託

「伊勢市男女共同参画都市宣言」「伊勢市男女共同参画推進条例」の理念を広く市民に周知するとともに、男女共同参画社会の実現を目指した取組を行った。

なお、企画運営については、公募市民11人で組織する「男女共同参画れいんぼう伊勢」と協働で行った。

ア パートナーの日の啓発推進

男女がお互いを思いやり、感謝する「パートナーの日（8月17日）」を広く市民に周知するため、啓発事業を行った。

①啓発品配布

実施日	実施場所	内 容
22. 7. 4	小俣町、ぎゅーとら小俣店	啓発用ティッシュの 配布
22. 7. 10	藤里町、船江3丁目、神田久志本町 ぎゅーとら藤里店、ハイジ店、神田久志本店	
22. 7. 25	岩渕1丁目 シティプラザ「ボランティアまつり」会場	

②講演会

開催日	開催場所	内 容	参加人数
22. 8. 8	ハートプラザみその 多目的ホール	落合恵子氏講演会 「いま、共生の時 ～女(ひと)と男(ひと)が共 に生きる社会」	人 328

イ 男の料理教室

家庭生活における男女共同参画を目指して、簡単にできる男性の料理教室を開催し、家庭生活に対する男性の参画を促した。また、家族で参加する「ファミリー料理教室」も開催した。

内 容	開催日	開催場所	講 師	参加人数
男の料理教室	22. 7. 24	ハートプラザみその 栄養指導室	男女共同参画 れいんぼう伊勢	人 11
男の料理教室 (初級編)	22. 10. 30	ハートプラザみその 栄養指導室	男女共同参画 れいんぼう伊勢	17
ファミリー料理教室	23. 2. 26	ハートプラザみその 栄養指導室	江 京子 氏	30 (15組)

ウ 縁育講座の開催

コミュニケーションを学び、自分さがしをしながら、自分にあった相手を見つける縁育講座を開催した。

開催日	開催場所	講 師	参加人数
22. 12. 5	御菌公民館	(株)Will Staff 長谷川 聡子 氏	人 36

エ 三重県内男女共同参画連携映画祭

三重県の男女共同参画を推進するため、県内の男女共同参画センター3館と9市町が連携して映画祭を開催した。

開催日	開催場所	内 容	参加人数
22. 6. 27	ハートプラザみその多目的ホール	映画「60歳のラブレター」	人 330

(2) 男女共同参画審議会の開催

男女共同参画基本計画（れいんぼう計画）に基づいた男女共同参画の推進に関する施策の実施状況について、審議した。

回 数	開催日	開催場所	内 容
第1回	22. 6. 18	市役所東庁舎 4-2 会議室	①平成21年度・22年度の事業取組状況について ②れいんぼうプランの成果目標の取り組みについて

(3) 人材育成講座の開催

社会のあらゆる場で、男女が個々の能力を発揮できる力を身につけ、男女共同参画を理解してもらうため、人材育成講座（れいんぼう講座）を開催した。

回 数	開催日	テーマ	講 師	場 所	参加人数
第1回	23. 3. 22	多様性のある組織、社会を考える	(財)ダイバーシティ研究所 代表 田村 太郎 氏	市役所 4-5 会議室	人 33

○ 市民交流関係

1 市民活動促進事業

(1) いせ市民活動センター指定管理者制度

平成16年4月に公設公営でセンターを稼働し、平成16年7月には、指定管理者制度を導入して公設民営で稼働。平成21年度から第3期目（3箇年）の指定管理者を選定している。

期 間	委 託 金 額	指定を受けた管理者
<第1期> 自16. 7. 1 至17. 3. 31	円 7,828,000	特定非営利活動法人 いせコンビニネット
<第2期> 自17. 4. 1 至21. 3. 31	48,202,000	〃
<第3期> 自21. 4. 1 至24. 3. 31	46,777,000	〃

(2) 事業の内容

ア いせ市民活動センター運営事業

- ・市民活動の拠点として、また中間支援施設としての市民公益活動の相談、ホームページ (<http://skc.e-ise.net>)、情報誌(「パーティ」年4回発行)等を活用し市民活動に関する情報の収集及び提供等を行った。
- ・交流事業などを通して、さまざまな団体と結びつき、広く市民活動への理解を深めた。

期 日	内 容
22. 8. 8	第1回いせ市民活動フェスティバル2010
22.12.18	チャリティコンサート第7回ミュージックコミュニケーション開催 (チャイルドライン24へ寄付)
23. 3.19	チャリティコンサート第8回ミュージックコミュニケーション開催 (東日本大震災義援金、支援金)

- ・ワーキングスペースに印刷機、コピー機、レンタルPC(センター内の利用に限る)を設置。また、会議スペース、フリースペース、情報スペースを開放し市民活動を支援した。同時に、市民活動支援パソコン講習会等も開催した。

イ センター管理業務

施設利用の登録、使用許可及び施設・設備及び機器の維持管理

(施設稼働状況)

	北 館				利用者数	南 館	
	平均稼働率					平均稼働率	利用者数
	多目的ホール	A会議室	B会議室	1 Fホール			
19. 4. 1 ～ 20. 3.31	% 37.4	% 33.3	% 35.5	% 19.8	人 47,898	% 27.5	人 16,808
20. 4. 1 ～ 21. 3.31	41.5	38.2	42.2	16.8	48,152	27.6	16,247
21. 4. 1 ～ 22. 3.31	39.3	42.0	45.5	24.7	42,273	26.7	15,963
22. 4. 1 ～ 23. 3.31	37.0	47.5	60.1	29.5	42,450	24.3	19,012

※平均稼働率…稼働実績時間数/稼働可能時間(11時間)×稼働可能日数

(登録団体数)

基準日	登録団体数
16. 7. 1	59 団体
18. 3. 31	82
19. 3. 31	102
20. 3. 31	113
21. 3. 31	127
22. 3. 31	143
23. 3. 31	156

(3) 協働事業の実践

平成 16 年 9 月、台風 21 号により甚大な被害を被った経験を教訓に、「災害に強いまちづくり」を目指し、平成 17 年度に市民と協働で取り組む「伊勢市防災しみんの会」を設立した。

主なメンバーは、いせ市民活動センター、伊勢市社会福祉協議会、伊勢市ボランティア連絡協議会、市民有志、伊勢市（市民交流課、危機管理課）。

また、同会の協力を得て、前年度に作成した「伊勢市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」に基づき、災害時における伊勢市と社会福祉法人伊勢市社会福祉協議会との災害ボランティアセンターの設置と運営等に関する協定の検討を行った。

期 日	内 容
22. 4. 15	第 1 回伊勢市防災しみんの会 平成 22 年度の事業計画について
22. 5. 20	第 2 回伊勢市防災しみんの会 社会福祉協議会「災害ボランティアコーディネーター養成講座」の開催について
22. 6. 21	第 3 回伊勢市防災しみんの会 災害ボランティアセンターマニュアルの活用訓練について
22. 7. 12	伊勢市社会福祉協議会（本所、伊勢、二見、小俣、御菌支所）新任担当者への マニュアル勉強会
22. 7. 15	第 4 回伊勢市防災しみんの会 災害ボランティアセンターマニュアルについて
22. 10. 13	伊勢市社会福祉協議会と伊勢市との協定について打ち合わせ
23. 2. 22	伊勢市社会福祉協議会と伊勢市との協定について打ち合わせ

2 活性化活動事業

市内に活動拠点を置く地域グループや活動団体が、元気で活気溢れる地域づくりに貢献し市民自治の担い手として活動を継続的に続けるために、その経費の一部を補助した。選考は平成 22 年 5 月 16 日に公開プレゼンテーションを実施し、審査員（民間及び学識経験者から 5 名、県職員 1 名を委嘱）が審査し決定した（申請団体 6、決定団体 6）。

補助金の補助率は対象経費の 10 分の 8 以内、10 万円を限度に交付した。

（対象事業）

保健・医療又は福祉の増進、子どもの健全育成、社会教育、まちづくりの推進、学術・文化・スポーツの振興、環境の保全、災害救援、地域安全、人権の擁護又は平和の推進、国際協力、男女共同参画社会の促進、雇用機会の拡充支援、情報化社会の発展等

平成 22 年度交付団体（6 団体）

団体名	交付額	事業内容
NPO 日本語支援「てらこや塾」	円 100,000	外国人児童・生徒に対する日本語学習の支援事業をより、充実・発展させるための教材開発及び教育内容整備事業
厚生総合型スポーツクラブ	100,000	小学生対象「スポーツ教室」
青春キネマ館&キッズシアター上演実行委員会	100,000	青春キネマ館とキッズシアター（通常上映会&ハンディキャップ上映会）
ハーモいせ	100,000	手作りの品の販売、憩いの店「みんなの広場ふくふくハーモ」の周知ほか。
二見浦再生協議会（地域資源活用会）	100,000	二見浦地域資源の発掘・活用事業（「貝めし」事業及び「ゆるキャラ」事業）
二見浦俳句大会実行委員会	100,000	第 47 回二見浦俳句大会
合 計	600,000	

3 伊勢のまつり開催事業

平成 22 年度開催は、総勢 65 団体の代表者等からなる実行委員会、「自分たちの祭りを自分達で考え、開催していく」をコンセプトに企画、運営、準備、片付けなど参加者と一緒に行われ、昨年度以上に実行委員会主体の運営態勢となった。

また“伊勢まつり”に併せて、高柳商店街サテライト会場では、「B 級グルメ屋台村など」の出店や、伊勢市駅前広場で「伊勢っ子ものしり王選手権」が行われるなどの伊勢まつりの開催に併せたイベントが実施され、前年にないまつりの魅力が創出された。

しかし、残念ながら 26 日（日）午後からの降雨により、参加を取りやめる団体もあった。

参加団体 209 団体（7,497 人） 観客数 約 15 万人（25 日 8 万人、26 日 7 万人）

4 地区連絡員事業

行政の運営を円滑に且つより効果的に行うため、市内に地区連絡員（176人）を配置し、行政情報等の伝達を行った。

- (1) 市の広報紙等の配付（月1回）
- (2) おしらせ版等の配布（月1回）
- (3) その他市長が特に必要と認める職務

平成22年3月31日現在の世帯数で報酬額を算定

最多世帯数 一之木地区 1,351世帯 最少世帯数 峰団地 11世帯

平均世帯数 300世帯（報酬総額 101,406,600円）

5 伊勢市協働の基本ルール策定

市民等や行政による協働のまちづくりを推進するため、「協働の基本ルール」を策定（平成23年3月18日）した。

このルールは、策定委員会（策定委員7名・会長 四日市大学総合政策学部松井真理子教授）によってまとめられたもので、協働のまちづくりに取り組むための基本的な考え方や手順を示した。

策定委員会開催日 4月26日、5月31日、6月28日、7月26日、10月25日、1月31日

○ コミュニティセンター関係

1 地区コミュニティセンター維持管理経費

コミュニティセンター使用状況

豊浜・城田・沼木・神社・北浜・浜郷・宮本・大湊地区コミュニティセンターについては、地域の会合、生涯学習・スポーツ課の出前講座など地域のコミュニティや生涯学習の場として活用されている。

(1) 豊浜地区コミュニティセンター（H22.4.1～H23.3.31）

会議室利用状況				図書室利用状況	
会議室1	会議室2	計	利用者数	貸出人数	貸出冊数
件	件	件	人	人	冊
58	5	63	921	86	184

(2) 城田地区コミュニティセンター（H22.4.1～H23.3.31）

会議室利用状況				図書室利用状況	
会議室1	会議室2	計	利用者数	貸出人数	貸出冊数
件	件	件	人	人	冊
84	53	137	1,681	615	1,522

(3) 沼木地区コミュニティセンター・農村環境改善センター (H22. 4. 1～H23. 3. 31)

会議室利用状況					図書室利用状況	
会議室	生活研修室	営農相談室	計	利用者数	貸出人数	貸出冊数
件	件	件	件	※ 人	人	冊
67	69	23	159	3,360	365	836

※選挙投票所として利用した1,200人を含む。

(4) 神社地区コミュニティセンター (みなとディサービスセンターに併設)
(H22. 4. 1～H23. 3. 31)

図書室利用状況	
貸出人数	貸出冊数
人	冊
801	1,966

(5) 北浜地区コミュニティセンター (H22. 4. 1～H23. 3. 31)

会議室利用状況				図書室利用状況	
会議室 1	会議室 2	計	利用者数	貸出人数	貸出冊数
件	件	件	人	人	冊
76	38	114	1,828	359	1,134

(6) 浜郷地区コミュニティセンター (H22. 4. 1～H23. 3. 31)

会議室利用状況				図書室利用状況	
会議室 1	会議室 2	計	利用者数	貸出人数	貸出冊数
件	件	件	人	人	冊
167	0	167	3,753	103	359

(7) 宮本地区コミュニティセンター (H22. 4. 1～H23. 3. 31)

会議室利用状況				図書室利用状況	
会議室 1	会議室 2	計	利用者数	貸出人数	貸出冊数
件	件	件	人	人	冊
132	182	314	2,830	238	817

(8) 大湊地区コミュニティセンター (H22. 4. 1～H23. 3. 31)

会議室利用状況				図書室利用状況	
会議室 1	会議室 2	計	利用者数	貸出人数	貸出冊数
件	件	件	人	人	冊
27	31	58	1,102	164	467

○ 国際交流推進事業関係

1 国際交流推進事業

市民ボランティア及び外国籍を持つ人々と「ともに暮らす国際交流のまちづくり」を推進した。

(1) 外国人住民への支援

ア 外国人研修制度により来日した中国人研修生対象の説明会の開催

- ・日時 平成 22 年 4 月 15 日、6 月 9 日、7 月 12 日、9 月 27 日、9 月 28 日、11 月 2 日、平成 23 年 1 月 28 日
- ・場所 いせ市民活動センター 2 階、小俣町合同会館

イ 外国人のための生活ガイドの改訂、配布及び防災マニュアル等の作成、配布

伊勢市で生活する外国人住民の日常生活の利便を図るため、基本的な情報を掲載した「伊勢市生活ガイド」（日本語版、中国語版、ポルトガル語版、英語版）を改訂し、配布した。

また、防災マニュアル、外国人質問用紙等を作成し、入国・転入等で伊勢市へ異動してきた外国人へ配布した。

ウ 三重県市町多文化共生ワーキングへの参加

外国人の定住化が顕著になる中、県内の外国人住民と共生する施策を考えるための多文化共生ワーキングが三重県及び 11 市町のメンバーにより開催され、計 12 回参加した。

市町役場の窓口において使用する「指差し会話集」、多言語訳の「外国籍児童生徒用の職業案内」の普及を行った。

(2) 国際交流関係

伊勢市国際交流協会

国際交流事業を通して、市民と外国の人々との交流、親善の促進と国際相互理解の増進を図り、世界平和の理念の達成に資するとともに、国際感覚あふれるまちづくりに寄与することを目的として活動している。市は、事務局としてその活動を支援し、市民とともに伊勢市の国際化に関する事業を推進している。

- 主な事業
- ・外国人住民のための日本語教室
 - ・国際理解講座
 - ・ホームステイ
 - ・世界の文化の紹介イベント
 - ・伊勢市駅前ボランティアタウンガイド
 - ・会報誌「フィロス」の発行 等

平成 23 年 3 月末会員数 個人会員 110 名、団体会員 7 団体、企業会員 4 企業

2 中学生国際理解講座

中学生が多文化共生を体験する場として、伊勢市国際交流協会との共催で、夏休み期間を利用して国際理解講座を開催した。伊勢市在住の外国人の中で中国人は4割以上を占めているため、一番身近に触れ合う機会が多い中国についての理解を深めることを目的に講座を行った。

講座参加対象者・開催日時等

- ①対象 伊勢市内在住中学生
- ②日時 平成22年8月19日(木) 10:00~15:00
- ③参加人数 15人
- ④内容 三重県の国際交流員(CIR)及び、三重県国際交流啓発員の協力のもと、中国に関するクイズや講座、お菓子作り等を行った。

○ 自治会関係

1 区長謝礼事業

市内173自治会の活動について、行政委員等その候補者推薦業務等、依頼事項に対する謝礼を交付した。
(報償費総額 7,260,000円)

2 振興助成金事業

市内173の地区の円滑な運営と健全な自治会活動を推進するため助成金を交付した。

	自治会数	対象世帯数	振興助成金		
			平等割	世帯割	合計
本庁	50	19,481	円 2,500,000	円 6,818,350	円 9,318,350
支所	72	19,281	3,600,000	6,748,350	10,348,350
二見総合支所管内	10	3,338	500,000	1,168,300	1,668,300
小俣総合支所管内	27	7,194	1,350,000	2,517,900	3,867,900
御薊総合支所管内	14	3,580	700,000	1,253,000	1,953,000
合計	173	52,874	8,650,000	18,505,900	27,155,900

3 元気なまちづくり協働事業

市と自治会が協働して地域社会の活性化を図るため、自治会が主体的に取り組む事業に対して、補助した。

補助金の限度額は、対象事業費に対して3分の2を乗じた額か、世帯割に応じて積算された額を比較し、いずれか低い額を限度額として交付した。

(対象事業)

- ①地域に根ざした伝統文化の継承事業 17 件
 - ②地域の特性を生かしたイベントなどの地域おこし事業 9 件
 - ③地域内の清掃美化等の環境保全事業 89 件
 - ④補導や啓発、巡視活動等の青少年育成事業 9 件
 - ⑤訓練や啓発、巡視活動等の防犯・防災事業 16 件
 - ⑥少子高齢化社会対策やバリアフリー社会実現のための社会福祉事業 4 件
 - ⑦住民の交流を通じ、地域コミュニティを活性化するための地域交流事業 111 件
- ・平成 22 年度対象自治会 173 自治会
- ①交付申請・決定 8,668 千円 (144 自治会)
 - ②交付確定 8,311 千円 (142 自治会)

4 コミュニティ助成事業

(財) 自治総合センターが、宝くじの普及広報事業費として受け入れる受託事業収入を財源とした事業であり、コミュニティ活動の健全育成を図り、宝くじの普及広報を目的としコミュニティ組織である自治会にコミュニティ事業補助金を交付した。

交付決定自治会 12 自治会

交付決定額 18,000 千円

自治会名	補助金額	事業名
出雲町自治会	2,500,000	太鼓購入
小林区	1,800,000	文化・学習活動用備品購入
黒瀬町中崎自治会	1,000,000	〃
小俣町松倉自治区	1,300,000	〃
西本町自治区	1,200,000	〃
常磐表町町内会	1,500,000	太鼓購入
新高第 2 自治会	1,500,000	祭り用具購入
津村町	1,300,000	文化・学習活動用備品購入
第一部自治区	1,400,000	〃
今一色区自治会	1,700,000	〃
大世古町会連合会	2,500,000	祭り用具購入
中島旭町自治会	300,000	青少年健全育成助成事業
合計	18,000,000	

5 伊勢市総連合自治会事務

伊勢市総連合自治会は、各自治会による自治活動について連絡協議し、自治会相互の親睦と市民の福祉増進に努めるとともに、市政の発展に寄与することを目的として活動しており、その事業活動を支援するため補助金を交付した。(補助金 1,430,000 円)

6 地縁団体等関係

地方自治法第 260 条の 2 の規定に基づき、自治会等地縁による団体の法人格取得について、認可事務を行った。

平成 22 年度 地縁団体認可団体数 3 団体（累計認可団体数 64 団体）

○ 地域自治推進関係

1 地域自治推進事業

「ふるさと未来づくり」を推進するにあたって、市役所と地域とのパイプ役として各小学校区に配置した「地区担当職員」が地域で懇談会を行い、取り組みに対する地域住民の理解促進を図った。また、「ふるさと未来づくり」モデル地区に選定した厚生地区、小俣・明野地区、沼木地区から、その仕組みを完成させるため、検証を行った。

さらに地域リーダー養成のための研修会や、市民の自治意識啓発のための講演会を開催した。

(1) 「地区担当職員」によるまちづくり支援

市と地域とのパイプ役として各小学校区に配置された市職員（地区担当職員）が行政情報の提供及び地区情報の収集を行うとともに、「地区みらい会議」（仮称）の設立に向けて地域自らのまちづくりを支援した。

また、各地区の取り組み状況の把握と情報交換、相互調整を行うため、各地区の班長で組織した「地区担当者会議」を随時開催した。

ア 地区担当者数

課長級職員 74 人（内訳：二見・御菌学区は各 4 人、その他学区各 3 人）

イ 地区担当者会議

第 1 回

開催日 平成 22 年 5 月 7 日（金）

内 容 ・「ふるさと未来づくり」の今後のスケジュールについて
・各地区の取組み状況の情報交換

第 2 回

開催日 平成 22 年 11 月 5 日（金）

内 容 ・各地区の取組み状況の情報交換

(2) 広報活動

ケーブルテレビで「ふるさと未来づくり」の概要を伝えるとともに、「広報いせ」でもシリーズで「私たちの地域だから、私たちでやりたいことがある」と題して「ふるさと未来づくり」の概要を伝えた。

(3) 研修会、講演会等の開催

ア 「まちづくり人材養成講座」の開催

「ふるさと未来づくり」を進めるための知識や手法を習得し、地域に根ざした創造性豊かなまちづくりの推進役となる人材を養成するため講座を開催した。

第1回 「地域づくり全体を学ぶ」

開催日 平成22年9月4日(土)
開催場所 伊勢商工会議所 5階大ホール
講師 東京農工大学生物システム応用科学府 福井 隆 客員教授
参加者 一般公募、自治会関係者、地区担当職員 57人

第2回 「各まちづくり協議会の活動を学ぶ①」

開催日 平成22年10月2日(土)
開催場所 伊勢商工会議所 5階大ホール
先進地報告 厚生地区まちづくりの会 副会長 浦田 眞さん
小俣まちづくり協議会 会長 松家孝司さん
沼木まちづくり協議会 事務局長 的場善一さん
コーディネーター 三重中京大学現代法経学部 村林 守 教授
参加者 一般公募、自治会関係者、地区担当職員 52人

第3回 「各まちづくり協議会の活動を学ぶ②」

開催日 平成22年10月23日(土)
開催場所 伊勢商工会議所 4階中ホール
講師 東京農工大学生物システム応用科学府 福井 隆 客員教授
参加者 一般公募、自治会関係者、地区担当職員 43人

イ 「地域主体の新たなまちづくり講演会」の開催

新たな住民自治の仕組みづくりとしての「ふるさと未来づくり」に対する理解を更に深め、市全体の気運の醸成を図るため講演会を開催した。

開催日 平成22年11月27日(土)
開催場所 ハートプラザみその 多目的ホール
講演 「みんなで地域のことを考えよう!～地域自治組織の可能性～」
帝塚山大学法学部 中川幾郎 教授
先進地報告 地域協働によるまちづくりの実践例
伊賀市上野南部地区住民自治協議会 会長 小丸勅司さん
参加者 一般市民、自治会関係者、各種団体、市議会議員、職員等 合計300人

(4) 「ふるさと未来づくり」モデル地区への支援

ふるさと未来づくり推進計画を検証するため、モデル地区に人的支援、財政支援を行い、地域主体のまちづくりを推進するとともに、ふるさと未来づくりに対する市民の理解促進と気運の醸成を図った。

モデル地区選定日 厚生地区 : 平成 20 年 11 月 18 日
小俣・明野地区 : 平成 21 年 5 月 7 日
沼木地区 : 平成 22 年 2 月 17 日

○ 合併調整関係

1 伊勢市総合支所連絡会議

各総合支所相互及び本庁との連絡調整を行い、市行財政の適正かつ効率的な遂行を図るため「伊勢市総合支所連絡会議」を設置している。構成員は副市長を座長とし、総合支所長、総務部長、情報戦略局長、環境生活部長及びあらかじめ市長が指名した者で組織し、平成 22 年度に開催した各会議の案件は下記のとおりであった。

第 42 回総合支所連絡会議

開催日 平成 22 年 4 月 27 日 (火)
付議事項 ・ 放課後児童対策事業について
・ 交通安全指導員配置事業について
報告事項 ・ 都市公園施設維持管理事業について

第 43 回総合支所連絡会議

開催日 平成 22 年 5 月 26 日 (水)
付議事項 ・ 公立幼稚園について
・ 既存戸別受信機（御菌町防災告知システム含）の当面運用と新機種導入にかかる個人負担について
・ 伊勢市ケーブルテレビ加入補助金及び宅内工事補助金の調整について
・ ケーブルテレビ視聴料の調整について
・ ケーブルテレビ引込工事及びホームターミナル設置補助の調整について

第 44 回総合支所連絡会議

開催日 平成 22 年 7 月 27 日 (火)
付議事項 ・ 廃棄物投棄場管理について

第 45 回総合支所連絡会議

開催日 平成 22 年 9 月 30 日（木）

付議事項 ・し尿収集運搬料金について

その他 ・公民館等集会施設関係補助金調整（案）について

第 46 回総合支所連絡会議

開催日 平成 22 年 11 月 24 日（水）

付議事項 ・身体障害者福祉電話設置事業について

・緊急通報装置給付・貸与事業について

・グループホーム管理運営について

・市・町・村民芸能祭

・公共的団体の取扱い（文化協会）について

・文化協会補助事業について

・公共的団体の取扱い（体育協会）について

・体育協会補助金について

・公共的団体の取扱い（スポーツ少年団）について

・スポーツ少年団補助金について

・公共的団体の取扱い（レクリエーション協会）について

・レクリエーション協会補助金について

・歩け歩け大会について

・体育指導事業について

・総合型地域スポーツクラブ育成事業について

・生涯スポーツ行事開催事業について

第 47 回総合支所連絡会議

開催日 平成 22 年 12 月 17 日（金）

付議事項 ・身体障害者福祉電話設置事業について（再協議）

・緊急通報装置給付・貸与事業について（再協議）

・中小企業相談所事業補助金、経営改善普及事業補助金について

・施設使用料の取扱いについて

2 地域審議会正副会長会議

市民の声を施策に反映させることを目的に合併前の4市町村の協議により、各区域を単位に設置している地域審議会の活動状況報告、連絡調整、意見交換の場として正副会長会議を次のとおり開催した。

第1回地域審議会正副会長会議

開催日 平成22年11月15日（月）

協議事項 ・ 合併調整の進捗状況について
・ 各地域審議会の状況及び今後の進め方について

伊勢市地域審議会委員交流会

開催日 平成23年1月27日（木）

開催場所 市役所東庁舎4-3会議室ほか

基調講話 ・ 演題「市政推進に向けた私の思い」

伊勢市長 鈴木健一

各審議会委員交流会

グループでの意見交換内容の発表

戸 籍 住 民 課

○ 届出係

1 住民関係

(1) 住民基本台帳世帯数及び人口

区 分		平成 23 年 3 月末
世 帯 数		52,853 世帯
人 口	男	62,878 人
	女	69,585
	計	132,463

(注) 伊勢市総数

(2) 住民異動状況

区 分		人 数
届 出	転 入	3,276 人
	転 出	3,346
	転 居	3,826
	世 帯 変 更	2,439
	そ の 他	34
職 権	出 生	990
	死 亡	1,422
	職 権 消 除	4
	修 正	4,225
計		19,562

(注) 伊勢市総数

2 戸籍関係

(1) 戸籍及び本籍人口（平成 23 年 3 月 31 日現在）

戸 籍 数	62,486 戸籍
本 籍 人 口	154,310 人

(注) 伊勢市総数

(2) 届出事件の状況

事件の種類	届出	他市町村からの送付	計
出生	809件	439件	1,248件
婚姻	501	899	1,400
離婚	197	151	348
死亡・失踪	1,270	343	1,613
養子縁組	73	44	117
養子離縁	25	17	42
国籍の得喪・留保	6	19	25
本籍表示の変更	248	250	498
上記以外で氏・名の変更が生じるもの	281	140	421
上記以外で身分に変更が生じるもの	23	14	37
訂正・追完	107	8	115
不受理申出	15	10	25
その他	1	3	4
計	3,556	2,337	5,893

(3) 戸籍事務処理状況

区分	件数
新戸籍編製	842件
戸籍全部消除	960
通知違反	9
その他	24
計	1,835

(4) 人口動態調査票作成状況

区分	男	女	不詳	計
出生	554件	550件	1件	1,105件
死亡	735	709	1	1,445
死産	13	5	10	28
婚姻				630
離婚				246
計				3,454

(注) 人口動態調査令 (昭和 21 年勅令第 447 号) に基づき、保健所へ提出
伊勢市総数

(5) 相続税法による死亡通知件数 1,446 件

(注) 相続税法 (昭和 25 年法律第 73 号) 第 58 条に基づき、税務署へ通知
伊勢市総数

(6) 死産届出受理状況

男	女	不詳	計
13 件	5 件	10 件	28 件

(注) 伊勢市総数

(7) 埋葬・火葬許可状況

区 分	大 人	小 人	胎 児	計
埋 葬	0 件	0 件	3 件	3 件
火 葬	1,102	2	21	1,125
計	1,102	2	24	1,128

(8) 民刑事事項等処理状況

区 分	件 数
犯罪関係通知	256 件
民事関係通知	38
身元事項照会	2,919
計	3,213

(注) 伊勢市総数

3 支所関係

(1) 戸籍関係手数料調定事務等

各支所との連絡調整のほか、支所で取り扱う戸籍関係手数料の調定を行った。

また、市役所各課の業務、自治会との連絡調整業務、資源回収ステーション業務、図書業務その他の受付業務等の多岐に渡る業務を行い、市街地周辺の住民の利便性とサービス向上を図った。

区 分	神社支所	大湊支所	浜郷支所	宮本支所	豊浜支所
戸籍手数料	(944件) 533,700円	(624件) 334,700円	(848件) 453,200円	(471件) 253,950円	(1,034件) 578,700円
住民基本台帳 関係手数料	(1,544) 308,800	(971) 194,200	(2,010) 402,000	(835) 167,000	(1,333) 266,600
印鑑証明手数料	(1,293) 258,600	(917) 183,400	(1,741) 348,200	(973) 194,600	(1,636) 327,200

諸証明手数料	(33件) 6,600円	(20件) 4,000円	(32件) 6,400円	(20件) 4,000円	(35件) 7,000円
外国人登録関係 証明	(3) 600	(6) 1,200	(2) 400	(0) 0	(0) 0
計	(3,817) 1,108,300	(2,538) 717,500	(4,633) 1,210,200	(2,299) 619,550	(4,038) 1,179,500

区 分	北浜支所	城田支所	四郷支所	沼木支所	計
戸籍手数料	(1,010件) 547,600円	(729件) 389,450円	(757件) 429,850円	(390件) 218,200円	(6,807件) 3,739,350円
住民基本台帳 関係手数料	(1,582) 316,400	(1,374) 274,800	(940) 188,000	(511) 102,200	(11,100) 2,220,000
印鑑証明手数料	(1,600) 320,000	(1,346) 269,200	(1,032) 206,400	(595) 119,000	(11,133) 2,226,600
諸証明手数料	(32) 6,400	(21) 4,200	(19) 3,800	(8) 1,600	(220) 44,000
外国人登録関係 証明	(0) 0	(12) 2,400	(7) 1,400	(0) 0	(30) 6,000
計	(4,224) 1,190,400	(3,482) 940,050	(2,755) 829,450	(1,504) 441,000	(29,290) 8,235,950

4 住居表示事務

住居番号の申請を受け、実地調査を行うなどして住居番号を付定し、それぞれの申請者へ通知した。

住居	事務所	事業所等	合計
61件	0件	9件	70件

○ 証明係

1 住民関係

(1) 住民票の写し交付等の状況

区 分	有 料	無 料	計	収 入 金 額
住民票の写し	40,678件 (4,504)	4,693件	45,371件 (4,504)	8,135,600円
広域交付住民票の写し	59	0	59	11,800
戸籍の附票の写し	2,316	3,650	5,966	463,200
住民票記載事項証明	1,192	250	1,442	238,400
住民基本台帳カード	676	39	715	338,000

住民基本台帳閲覧	38件	0件	38件	7,600円
付随証明	185	14	199	37,000
印鑑登録証明	35,320 (9,184)	130	35,450 (9,184)	7,064,000
諸証明	身分証明	1,162	0	1,162
	その他	172	5	177
外国人登録関係証明	498 (66)	239	737 (66)	99,600
計	82,296 (13,754)	9,020	91,316 (13,754)	16,662,000

(注1) ()は自動交付機による内数。

(注2) 閲覧用紙1枚(20人まで抽出可能)で1件

(注3) 9支所含む。

(2) 住民基本台帳の閲覧団体数 30団体

(3) 住民基本台帳事務における支援措置者数(平成23年3月31日現在)

(ドメスティック・バイオレンス及びストーカー行為等の被害者の保護のための措置)

区 分	申 出 者	併せて支援を求める者	合 計
当市での申出受理	27名	35名	62名
他市からの支援要請	11	17	28
計	38	52	90

(注) 住民基本台帳法による住民票発行抑止及び戸籍の附票発行抑止の対象者

(4) 印鑑登録数(平成23年3月31日現在) 88,306件(伊勢市総数)

(5) 印鑑登録事務処理状況(伊勢市総数)

区 分		件 数
増	登 録	4,834件
	そ の 他	15
	計	4,849
減	廃 止	465
	亡 失	1,590
	死 亡	1,287
	転 出	1,262
	そ の 他	267
	計	4,871

(6) 住居表示関係証明件数 39件

(7) 電子証明書の様況

有 料	無 料	計	金 額
458 件	7 件	465 件	229,000 円

2 戸籍関係

(1) 戸籍謄抄本交付等の様況

区 分		件 数			収 入 金 額
		有 料	無 料	計	
全部事項 証 明 (謄 本)	戸 籍	14,270 件	3,436 件	17,706 件	6,421,500 円
	除 籍	11,854	3,759	15,613	8,890,500
	計	26,124	7,195	33,319	15,312,000
個人事項 証 明 (抄 本)	戸 籍	5,157	230	5,387	2,320,650
	除 籍	92	46	138	69,000
	計	5,249	276	5,525	2,389,650
一部事項 証 明	戸 籍	2	5	7	700
	除 籍	0	0	0	0
	計	2	5	7	700
記載事項 証 明	戸 籍	0	0	0	0
	除 籍	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
受 理 証 明 等	(2) 159	0	(2) 159	(2,800) 57,750	
届書記載事項証明	228	2	230	79,800	
閱 覧	0	0	0	0	
計	(2) 31,762	7,478	(2) 39,240	(2,800) 17,839,900	

(注1) () は、上質紙使用の内数。

(注2) 9支所含む。

3 外国人登録関係

(1) 外国人登録事務様況(伊勢市総数)

異 動 事 由	件 数	異 動 事 由	件 数	異 動 事 由	件 数
入 国	293 件	登録証再交付	10 件	帰 化	4 件
出 生	5	登録内容変更	532	死 亡	2
日本国籍離脱	0	転 居	127	転 出	233
転 入	108	出 国	219	確 認	147
登録証引替	21	国籍取得	0	そ の 他	17

(2) 外国人登録者国籍別在籍人員（平成 23 年 3 月 31 日現在 伊勢市総数）

外国人登録者総数 1,064 人（男 435 人、女 629 人）

世帯数 837 世帯

国 籍	男	女	計
アンティグア・バーブーダ	0 件	1 件	1 件
オーストラリア	2	1	3
ブラジル	138	94	232
カナダ	3	3	6
中国	138	299	437
デンマーク	1	0	1
フランス	1	1	2
インドネシア	3	4	7
アイルランド	1	0	1
朝鮮	6	6	12
韓国	73	95	168
ラオス	1	0	1
マレーシア	2	3	5
ネパール	14	11	25
オランダ	2	0	2
パキスタン	3	0	3
ペルー	6	6	12
フィリピン	9	60	69
ポーランド	1	0	1
ルーマニア	0	1	1
ロシア	5	0	5
シンガポール	0	2	2
スペイン	2	2	4
スリランカ	1	0	1
タイ	1	29	30
トンガ	0	1	1
ミャンマー	1	1	2
英国	5	2	7
米国	16	4	20
ベトナム	0	3	3

4 郵送請求処理件数

区 分	有 料	無 料	返 戻	合 計	取扱件数
戸 籍 関 係 証 明	(7,458 件)	(4,433 件)	147 件 (諸証明関係含む)	147 件 (11,891)	12,038 件
住 民 票 関 係 証 明	(4,718)	(4,412)	502	502 (9,130)	9,632
外 国 人 登 録 関 係 証 明	(8)	(155)	0	0 (163)	163
諸証明関係(身分証明等)	(400)	(9)		(409)	409
計	(12,584)	(9,009)	649	649 (21,593)	22,242

(注) () は「1. 住民関係」及び「2. 戸籍関係」の内数

5 自衛官募集事務

自衛隊三重地方連絡部伊勢募集事務所長から依頼を受け、隊員募集案内リーフレットの展示や郵送配布、懸垂幕掲示、広報いせを通じたの広報など、新規隊員募集の事務補助を行った。

なお、市内から4名（陸上自衛隊3名、海上自衛隊1名）の入隊者があった。

人 権 政 策 課

○ 人権施策推進事業

1 伊勢市人権施策推進協議会

人権尊重の理念に関する市民相互の理解を深めるための総合的かつ計画的な施策の推進を図ることを目的に平成14年7月11日に設立した、関係官庁や市民団体等の代表26名で構成する「伊勢市人権施策推進協議会」により、官民一体となって、様々な人権問題の解決に向けた取組みを実施している。

開催日	事業名	事業内容	備考
22. 6. 1	総会	平成21年度事業報告、決算報告の承認 平成22年度事業計画（案）、予算（案）の承認 場所 市役所本庁舎4階会議室	
7. 2	幹事会	委員会への提出案件協議 場所 市役所本庁舎1-1会議室	
7. 21	委員会	人権尊重啓発ポスター募集事業、人権セミナー 街頭啓発について 場所 ハートプラザみその	
8. 1 ～12. 24	人権尊重啓発ポスター募集事業	市内小中学校児童生徒から599点の応募 市長賞9点、会長賞100点 11. 23～30まで伊勢図書館において展示 12. 4 生涯学習センターいせトピアにおいて 表彰、展示 12. 16～24まで小俣図書館において展示	広報いせ8.1号にて公募
9. 30	第1回 人権セミナー	「インターネットと人権」 講師 財団法人 反差別・人権研究所みえ 松村元樹 氏 場所 ハートプラザみその	参加者39名
11. 11	第2回 人権セミナー	「人を大切にするとはい～同和問題を考える～」 講師 浜郷小学校 校長 山崎明彦 場所 ハートプラザみその	参加者32名

11. 23 ～12. 10	人権週間催し 告知等	伊勢市ホームページへの掲載 i TV文字放送、行政チャンネル放送にて催し の告知	
11. 26 ～12. 10	人権パネル展等	市役所1階ロビーにて人権パネル展を開催 生涯学習センターいせトピア及び市役所におい て懸垂幕を掲出 市役所本庁舎、各総合支所にのぼり旗の掲示	
12. 3	街頭啓発	12. 4～10の人権週間に合わせ、市民の人権尊重の 意識高揚を目的に、市内ショッピングセンター等 にて協議会委員による啓発物品配布等の啓発活 動を実施	参加者36名 配布数1200個
12. 4	人権講演会	「竹田の子守唄～名曲に隠された事実～」 講師 音楽プロデューサー 藤田 正 氏 場所 生涯学習センターいせトピア	参加者200名
23. 1. 28	第3回 人権セミナー	「アイヌの友人たちとの出会いの中から」 講師 松浦武四郎記念館 名誉館長 高瀬英雄 氏 場所 ハートプラザみその	参加者30名
2. 14	幹事会	委員会への提出案件協議 場所 市役所東庁舎2-2会議室	
2. 23	委員会	平成22年度事業報告及び決算見込 平成23年度事業計画（案）及び予算（案） 場所 市役所東庁舎4-2会議室	
3. 16	第4回 人権セミナー	「在日として伝えたいこと～イメージの払拭～」 講師 在日本大韓国民団三重県本部事務局 事務局長 韓 久 氏 場所 ハートプラザみその	参加者21名
随 時	人権啓発冊子等 発行	人権ハンドブックN0. 12（慣習と人権）	1,000部作成

○ 人権啓発推進事業

市民一人ひとりが自らの人権意識を高め、すべての人々の人権が守られる心豊かな明るく住みよい地域社会を築いていくことを目的に、次のとおり啓発活動を推進した。

1 各種広報、啓発事業

広 報 啓 発 事 業	内 容	備 考
広報いせ人権シリーズ掲載	人権尊重の理念の普及とその理解を深めてもらうことを目的に、様々な人権問題をテーマに取り上げ、市民の方々に人権について考えていただく機会とした。	毎号掲載
地域人権啓発紙の編集	市民館、教育集会所が中心となって作成する地域人権啓発紙への記事提供及び編集。広報いせ人権シリーズ同様、様々な人権問題をテーマに取り上げ、地域の方々に人権について考えていただく機会とした。	地域人権啓発紙 2紙 毎月発行
人権週間啓発パンフレットの作成	人権週間をPRし、人権の大切さを広く市民に訴えるため、啓発パンフレットを作成し、人権尊重宣言都市啓発用クリアホルダーと合わせて、街頭啓発、関係機関窓口等で配布した。	パンフレット 3,500枚 クリアホルダー 3,500枚
人権啓発パンフレット等の作成	市民の人権意識の高揚と人権を侵害する落書き行為などの予防、啓発のためパンフレットを作成した。	パンフレット 3,500枚

2 人権相談

市民を対象とした、様々な人権問題についての相談を随時受け付け、相談者自らが主体的に解決できるよう情報の提供や助言を行っている。

○ 隣保館運営事業

周辺地域を含めた地域社会全体の中で、福祉の向上や人権啓発、住民交流の拠点となる開かれたコミュニティセンターとして、生活上の各種相談や介護福祉講座等の諸事業を実施するとともに、これらの活動を通じ日常生活に根ざした啓発活動を行い、住民の交流促進と福祉の向上に努めた。

1 事業費

	総事業費	補助基準額	財源内訳	
			県補助金	市費
隣保館 運営事業費	35,358,672 円	34,097,406 円	25,573,000 円	8,524,406 円

2 事業内容

事業区分		朝熊市民館		大久保市民館		黒瀬市民館		計	
		件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員
相談 事業	人権相談	7	10	0	0	0	0	7	10
	職業相談	27	29	16	17	2	2	45	48
	教育相談	5	5	2	2	0	0	7	7
	福祉相談	9	11	9	10	1	1	19	22
	生活相談	69	70	29	29	13	15	111	114
	健康相談	9	9	2	2	0	0	11	11
	その他相談	121	137	22	23	6	6	149	166
講座	介護福祉講座	7	128	—	—	4	90	11	218

○ 非核・平和推進関係

1 非核・平和第 32 回空襲展の開催

市民の空襲の記録を収集し、展示することによって、核兵器の廃絶及び軍備縮小並びに平和を広く訴えるため、平成 22 年 8 月 14 日・15 日に、ハートプラザみそのにおいて、非核・平和第 32 回空襲展実行委員会と共催し、空襲展を開催した。

当課の企画として、伊勢市にも戦争の惨禍があったことを再認識する企画として「市内戦跡めぐり」を実施した。

主な催し物・・・講演会、映画、すいとん汁試食コーナーなど

主な展示物・・・伊勢空襲の記録・写真、焼夷弾、戦時中の生活用品など

2 原爆被災写真展

非核・平和第 32 回空襲展を前に、原爆被爆の実相を伝え、戦争や核兵器のない未来をつくることをめざして、広く市民に平和の尊さを訴えるパネル展を 8 月 2 日から 8 月 12 日まで、市役所 1 階ロビーにて開催した。

3 非核平和都市宣言折り鶴

学校教育課を通じて市内各中学校の生徒代表による広島平和記念式典への参加にあたって、各校生徒が平和への祈りを込めて作る千羽鶴用に、伊勢市非核平和都市宣言文を印刷した折り紙用紙を提供した。(12 校×1,000 枚)

また、市役所ロビーにおける原爆被災写真展、非核・平和第 32 回空襲展の折り鶴コーナーでも利用した。

4 日本非核宣言自治体協議会

非人道的核兵器の使用は人類と地球の破滅につながる恐れがあり、住民の生命と生活を守るとは自治体の責務であるとの考えから、全国・全世界に核兵器廃絶、恒久平和を呼びかけるほか、平和の尊さを訴えるという日本非核宣言自治体協議会の趣旨に賛同、加盟し、協議会を通して核実験を行う諸国への抗議行動や地雷廃絶キャンペーンを行った。

(非核宣言自治体数 1,534 自治体 うち協議会会員自治体数 271 自治体：平成 23 年 4 月現在)

環 境 課

○ 環境全般

1 「伊勢市環境基本計画」の進捗管理

環境に関わる各計画の最上位計画にあたる「伊勢市環境基本計画」にて掲げた“めざす姿”の実現のため、施策の取組状況や8つの重点事業の実績などの進捗状況について、伊勢市環境審議会へ報告し、意見をいただいた。

なお、伊勢市環境審議会は、伊勢市環境基本条例第11条の規定に基づき設置している。

伊勢市環境審議会委員 会長：朴恵淑（三重大学学長補佐）、副会長：深草正博（皇學館大学教授）、その他委員：公共的団体等に所属する者でその団体の推薦を得た者10人、学識経験を有する者1人、その他市長が必要と認める者6人。

2 環境管理システムの推進

平成20年度からISO14001の規格によらない環境管理システムの運用をしている。全庁的に取り組む施策と本庁、各総合支所にて取り組む事務活動に大別し、事務活動については、事務用紙使用量、可燃ごみ排出量、電力使用量、公用車燃料使用量の削減に取り組み、毎月、グループウェア掲示板において取り組み実績、取り組みのアイデアを紹介した。結果、事務用紙使用量のみ年度当初の目標を達成したが、公用車燃料使用量、可燃ごみ排出量、電力使用量については、目標を達成できなかった。

また、全庁的に取り組むものに関しては年度締めで報告書「えこのおと 伊勢市環境報告書（平成21年度）」を作成し、庁内外に周知することで幅広く伊勢市の環境に関心を持ってもらうよう取り図った。

皇學館大学との包括連携によるスターティングプロジェクトに位置付けられた「環境ミーティング～大学生と語る伊勢の環境～」を開催し、学生と様々な意見交換を行った。

3 エコキャップ推進運動

市では、ペットボトルのキャップをプラスチック製容器包装として分別回収しているが、市民の皆様がエコキャップ運動に協力していただけるよう、平成22年10月1日から市内の資源拠点ステーション、各総合支所生活環境課窓口、各支所窓口、市役所環境課窓口にエコキャップ回収容器を設置した。

実績

回 収 期 間	重さ	個数（約）	ポリオワクチン で換算
平成22年10月1日～平成22年11月30日分まで	kg 732	個 292,800	人分 366.0
平成22年12月1日～平成23年1月20日分まで	330	132,000	165.0

平成 23 年 1 月 21 日～平成 23 年 3 月 23 日分まで	kg 333	個 133,200	人分 166.5
計	1,395	558,000	697.5

4 環境啓発・環境教育の推進

(1) 環境フェア開催事業

ごみ減量化対策等を市民に周知し、また、いろいろな体験を通して市民の環境意識の向上や市の環境施策への理解と協力を得るため、平成 22 年 10 月 10 日(日)に、三重県営サンアリーナ(メインアリーナ及び屋外広場)において、伊勢市まちづくり市民会議環境分科会と市の協働で環境フェアを開催した。

なお、伊勢志摩労働者福祉協議会主催の「2010 福祉フェスティバル 勤労者ゆとり T・I・M・E y o u ・ ゆ う ・ 遊 i n g 」と同時開催。

(2) こどもエコクラブ

平成 7 年度から環境省が実施しているこどもエコクラブの運営支援を行った。

平成 22 年度の登録団体数：1 会員数：170 人 サポーター数：14 人

(3) 伊勢市まちづくり市民会議環境分科会

これまで、環境分野のうち、ごみの減量化・資源化の推進を目的とした「伊勢市ごみ問題市民会議」、また、伊勢の河川海域の浄化を目的とした「伊勢河川海域環境美化推進協議会」において、積極的な啓発活動などに取り組まれていたが、平成 21 年度末にて発展的に解消した。平成 22 年度からは「伊勢市まちづくり市民会議環境分科会」へ統合し、より充実した分野横断的な環境保全活動に取り組んだ。

平成 22 年度実施事業

実施日	実施事業名	概要	備考
22. 5. 30	伊勢市駅前 ごみゼロ早朝清掃	「ごみゼロの日」にちなみ、まちの美化の意識啓発のため、伊勢市駅前周辺を早朝清掃した。	参加者 約 480 人
22. 7. 4	勢田川七夕 大そうじ	勢田川の浄化と、河川美化の意識啓発のため、勢田川清掃を実施した。	参加者 約 3,000 人
22. 8. 6	水生生物による 水質調査	水環境に親しむきっかけづくり及び水質浄化意識の啓発のため、小学校児童らと宮川上・下流ごとの水生生物の生息状況により、水質を調べた。	市内小学校児童参加人数 17名
22. 10. 10	環境フェア	環境意識の啓発のため、体験ブース等を出展した。	来場者約 20,000 人

22. 10. 10	ごみゼロポスター コンクール表彰式	家庭でごみ問題について話し合うきっかけづくりとして、市内小中学校へ「3Rの推進」「ポイ捨て・不法投棄の防止」などをテーマに作品募集を行ない、環境フェアにおいて受賞者への表彰式を開催した。	受賞者 計 66 名
23. 2. 3	環境出前講座 「海や川を守ろう」	河川海域浄化意識の啓発のため、環境分科会参加者が講師となり、小中学校へ出向いて講義等をする環境出前講座を実施した。 (内容) ・ 河川海域の現状と対策についての講義 ・ 海藻しおりづくりの体験	受講者 北浜小学校6年生 47名
23. 2. 8 23. 2. 16	エコクッキング	生ごみを出さない、または、汚れた生活排水を流さない調理方法について実習した。 H23. 2. 8 小俣保健センター H23. 2. 16 生涯学習センターいせトピア	参加者 H23. 2. 8 20 名 H23. 2. 16 15 名

○ 地球温暖化防止対策の推進

1 伊勢市地域新エネルギービジョンの推進

(1) 住宅用太陽光発電システム普及推進事業

家庭でも比較的取り組みやすい家庭用新エネルギーの導入を促進し、地球温暖化防止対策を推進するために、住宅用太陽光発電システム設備設置者に対し補助を行った。

区分	補助金額	件数	支出額
太陽光発電設備	円 60,000	件 80	円 4,800,000
計	—	80	4,800,000

(2) 生ごみ（新エネ）研究会への参加

平成 19 年度策定した「伊勢市地域新エネルギービジョン」により重点事業とされた「バイオマス（生ごみ）活用事業」に関連するものとして、平成 21 年度から伊勢商工会議所に生ごみ（新エネ）研究会が設置され、環境課職員も研究会の一員として参加、事業化の検討をしている。

平成 22 年度は昨年度に続き、主に事業の採算性の面から生ごみの収集方法、生ごみから得られるメタンガスのエネルギー利用方法についてプラントメーカーへの聞き取りや、メタンガスを都市ガスとして精製し都市ガス導管へ注入した神戸市への視察などを経て検討した。

その結果、現状の燃えるごみを生ごみとそれ以外の燃えるごみに分け、生ごみは 2 回／週のバケツによる収集、それ以外の燃えるごみは 1 回／週の袋での収集とし、エネルギー利用については都市ガス原料として利用することが最善であるとの報告書が提示されたが、当地域における都

市ガス導管への注入に関しては受け入れ態勢など課題の解決が非常に困難であるため、事業の推進にあたってはさらなる精査が必要である。

また、環境省中部地方環境事務所とともに、昨年度の小俣町上久保自治会地域に続き、野村町会地域の協力を得て、平成22年10月1日から10月31日までの4週間にわたり、燃えるごみから生ごみを分別収集し、さらに通常1週間に2回の燃えるごみ収集回数を半減し、分別への協力度を調べる実験を行った。

その結果、重量比で生ごみへの異物混入率が1%を割るという非常に高い協力度が示された。

昨年度の小俣町上久保自治会地域での冬期の調査においても、重量比で生ごみへの異物混入率が1%を割るという結果が示されており、地域、季節を問わず高い協力割合を得られたことは、期間中の実験ではあるが、燃えるごみからの生ごみの分別という収集に一定の理解を得られたものと考えられる。

しかしながら、同時に実施した分別に対するアンケート調査結果では、悪臭や分別にかかる手間など様々な課題が指摘されており、実施にあたってはこれらの課題へ対応が必要と思われる。

○ 生活排水対策の推進

1 合併処理浄化槽設置の促進

(1) 小型合併処理浄化槽設置整備事業補助金

生活排水対策の推進を図るため、合併処理浄化槽設置者に対し補助を行った。公共下水道事業認可区域については、平成13年度より市単独補助を行っている。

区分		下水道認可区域外			下水道認可区域内			計	
種類	人槽	補助 基準額	補助 基数	補助 金額	補助 基準額	補助 基数	補助 金額	補助 基数	補助 金額
一般	5	千円 332	基 100	千円 33,200	千円 110	基 38	千円 4,180	基 138	千円 37,380
	7	414	85	35,190	138	26	3,588	111	38,778
	10	548	6	3,288	182	1	182	7	3,470
高度	5	444	100	44,400	—	—	—	100	44,400
	7	486	64	31,104	—	—	—	64	31,104
	10	576	2	1,152	—	—	—	2	1,152
	~50	576	2	1,152	—	—	—	2	1,152
計		—	359	149,486	—	65	7,950	424	157,436

2 生活排水対策用品配布事業

家庭でできる生活排水対策推進のため、持続効果の高い1mm目三角コーナーを一部有償（300円）で希望者に配布し、公共用水域の汚濁負荷量の軽減と生活排水の意識啓発を行った（配布個数94個）。

○ 公害対策事業

1 大気汚染調査

市内の大気汚染の実態を把握するため、県環境森林部により厚生中学校に設置（昭和63年3月から測定開始）されている大気汚染常時監視測定局で二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、オキシダント、窒素酸化物、炭化水素等の常時自動測定調査を行った。

2 水質調査

河川や海域の水質汚濁の防止を図るとともに汚濁状態を把握するため、河川や海域の水質を調査した。

(1) 22年度調査実施状況

区分	河川水質 (12河川)	海域水質	幹線排水路 水質
地点	32	7	4
項目	19	6	10
回数	4~12	4	4

(2) 河川BOD経年変化

年 度	17	18	19	20	21	22	環境基準
	mg/ℓ	mg/ℓ	mg/ℓ	mg/ℓ	mg/ℓ	mg/ℓ	
宇治橋（五十鈴川）	0.7	0.6	0.9	0.7	0.5	0.5	1 mg/ℓ 以下
堀割橋（五十鈴川）	1.0	0.8	1.1	0.8	0.8	0.6	2 mg/ℓ 以下
勢田大橋（勢田川）	3.8	▲6.7	4.1	4.1	2.9	3.1	5 mg/ℓ 以下
度会橋（宮川）	▲1.1	0.7	0.6	0.6	0.5	0.7	1 mg/ℓ 以下
大野橋（外城田川）	2.5	1.5	2.1	1.6	1.4	2.0	3 mg/ℓ 以下
豊浜橋（外城田川）	1.9	1.6	1.5	1.6	1.4	1.4	5 mg/ℓ 以下
有滝橋（江川）	1.4	0.9	0.9	0.8	0.6	0.6	—
大堀川橋（大堀川）	2.9	1.5	1.5	1.6	1.3	1.2	—
野垣外橋（汁谷川）	3.1	0.8	1.6	1.1	1.1	1.4	—
鮫川（上流）	—	—	—	—	—	21.2	—
鮫川（下流）	—	—	—	—	—	21.4	—

(注) ▲は、環境基準オーバーを表す。数値は平均値。

(3) 海域COD経年変化

年 度	17	18	19	20	21	22	環境基準
	mg/ℓ	mg/ℓ	mg/ℓ	mg/ℓ	mg/ℓ	mg/ℓ	
東大淀沖	0.2	0.7	1.2	1.1	1.2	1.9	2 mg/ℓ 以下
村松沖	0.5	0.8	0.8	1.2	1.3	1.6	3 mg/ℓ 以下
豊北漁港	0.7	0.9	1.0	1.1	1.4	1.7	3 mg/ℓ 以下
大湊沖	0.5	0.2	0.7	1.1	1.6	1.3	3 mg/ℓ 以下
宇治山田港	1.0	0.8	0.8	0.7	1.1	1.6	3 mg/ℓ 以下
宇治山田港沖	0.9	0.5	0.6	1.0	1.0	1.8	3 mg/ℓ 以下
笹笛川地先	—	—	0.9	1.4	1.5	1.6	3 mg/ℓ 以下

(注) ▲は、環境基準オーバーを表す。数値は平均値。

3 騒音・振動調査

伊勢市内における環境騒音・道路交通振動を測定し、現状を図ることにより公害を防止し、環境の保全を図る為に環境騒音・道路交通振動を測定した。

22年度調査実施状況については以下のとおりである。

区分	一般環境 騒音	道路交通 騒音	道路交通 振動
地点	8	8	1
基準適合 地点	8/8	8/8	1/1

4 悪臭

市内特定地点の臭気測定を実施し、現状を把握することにより環境の保全を図るために臭気測定を実施した。

22年度は市内4地点で年2回測定した。臭気指数はすべて10未満であり、参考基準値の臭気指数15を下回った結果になった。

5 公害苦情等処理状況

相隣関係的な苦情が多く、平成22年度の苦情処理結果は、大気汚染28件、水質汚濁8件、騒音29件、悪臭24件、廃棄物投棄10件、振動1件、土壌汚染1件、その他17件、合計118件であった。

6 公害関係法令に基づく各種届出受理業務

生活環境を保全し、市民生活の健康保護のため、公害関係法令に基づき、事業活動を行う工場及び事業場、また特定建設作業に対する各種届出受理業務を行った。

特定施設に関する設置等の届出については、以下のとおりである。

区分	設置届出数	廃止届出数	
大気汚染防止法	件 3	件 2	
水質汚濁防止法	9	5	
騒音規制法	0	0	
振動規制法	0	0	
三重県生活環境 の保全に関する 条例関係	ばい煙	0	0
	粉じん	0	0
	騒音	0	0
	振動	3	0
	揚水設備	0	0
ダイオキシン類対策特別措置法	0	0	
計	15	7	

特定建設作業に関する届出については、以下のとおりである。

区分	法律	条例
騒音	46件	13件
振動	14	4

○ 衛生・美化関係

1 防疫

生活環境の保全を図るため、希望自治会に煙霧消毒機械貸出（13台保有）を行った。また、ハチ防護服貸出を行った。

種別	区分	対象	件数	薬剤量
煙霧消毒 (油剤)	機械貸出	自治会	44件	0 909
	市職員実施	公共施設等	15	70

2 不法投棄防止対策事業

(1) パトロール及び不法投棄監視カメラによる防止対策

不法投棄防止に対する啓発看板の作成及び配布とともに、市内4箇所を設置した監視カメラ(移動式)で、不法投棄の未然防止に努めた。

(2) 不法投棄の通報への対応

市民の通報を受け、現場で投棄物の調査を行い、投棄者を特定できれば警察と連携して撤去を要請し、再発の防止に努めた。投棄者が不明の場合は看板で啓発し、一定期間を経て、更なる不法投棄を招かないように投棄物を回収した。なお、投棄場所が私有地の場合は、所有者に連絡して対応を求めた。

不法投棄物：テレビ151台、冷蔵庫33台、洗濯機17台、エアコン8台、タイヤ274本 他

3 伊勢公衆浴場組合に対する支援

市民の公衆衛生の確保を図るため、公衆浴場組合補助金に替わる支援策として、母の日、父の日、敬老の日における集客用の物品提供を行った。(平成22年度公衆浴場数8軒)

	物品	購入額
母の日(5月9日)	トイレットペーパー	720個
	ボックスティッシュ	600個
父の日(6月20日)	トイレットペーパー	720個
	ボックスティッシュ	600個
敬老の日(9月20日)	トイレットペーパー	720個
	ボックスティッシュ	600個
計	—	205,254円

その他、焚きつけ燃料の支援策として廃食用油回収業務を提供し、回収した廃食用油の有効活用を図っている。

4 放置自動車対策事業

放置自動車の発生を防止して、地域の美観を保持し良好な都市機能を維持するため、伊勢市放置自動車の発生の防止及び適正処理に関する条例（平成 17 年 11 月 1 日制定、同日施行）、市道、公園、市営住宅等の市有地に放置された自動車に対し措置を講じた。条例の運用は公共用地管理者（各課）が行う（処分経費は環境課で予算計上）。民有地については警察等と協力して助言指導を行う。（22 年度放置自動車処分台数 0 台）

5 高麗広地区飲料水浄化施設等設置補助事業

高麗広地区においては上水道施設がないことから、良質で安全な飲料水の確保のために、自家用井戸や浄水施設等を設置した当該地区住民に対し補助を行っている。（22 年度補助金交付件数 1 件）。

○ 墓地関係

1 市営墓地管理委託業務

市が管理する大世古墓地、大湊墓地及び小俣若山墓地について、管理及び清掃業務委託を行い、墓地環境の整備を図った。

墓 地 名 等	委 託 先	委 託 料
大 世 古 墓 地 管 理	大世古 3 丁目 北村日出子	円 156,000
大世古墓地除草及び清掃	(株) ひまわり	1,018,500
大湊墓地管理及び清掃	大湊町寿会老人クラブ	420,000
小 俣 若 山 墓 地 管 理	(社) 伊勢市シルバー人材センター	432,161
墓 地 管 理 シ ス テ ム 運 用 保 守 業 務	(株) 松阪電子計算センター	176,400
計	—	2,203,061

2 市営墓地管理賃借業務

市が管理する大世古墓地、大湊墓地及び小俣若山墓地について、管理システム及び駐車場の賃借を行い、墓地管理及び使用者の利便を図った。

墓 地 名 等	賃 借 先	賃 借 料
墓地管理システム賃借料 (大世古墓地・大湊墓地)	(株) 松阪電子計算センター	円 755,496
墓地駐車場賃借料 (小俣若山墓地)	(有) 西井建設	240,000
計	—	995,496

3 共同墓地整備費補助金

共同墓地の環境改善を図るため、自治会等が行った墓地整備事業に対し費用の一部を補助した。

墓地名	事業費	補助金	摘要
新高向共同墓地	円 265,423	円 176,000	墓地内通路排水補修工事
北明野墓地	498,750	332,000	墓地の排水路の改修
五十鈴川霊園墓地	800,000	533,000	手桶・柄杓等の棚の設置
今一色共同墓地	600,000	400,000	墓地内立ち木伐採
朝熊稲葉岡共同墓地	825,313	550,000	墓地の焼香場の改修
東大淀墓地	2,050,000	1,366,000	墓地参道の整備
茶屋共同墓地	484,050	322,000	松くい虫による枯松の抜倒
鹿海町墓地	1,304,850	869,000	墓地内大木の伐採
浦口墓地	7,371,000	3,000,000	転落防止用フェンス設置
黒瀬町墓地	2,562,000	1,708,000	墓地外周の擁壁の改修工事
小木町墓地	2,350,000	1,566,000	墓地外周のブロック塀の改修
計	19,111,386	10,822,000	

○ 犬・猫関係

1 狂犬病予防事務

狂犬病予防法に基づく畜犬登録及び狂犬病予防注射を実施している。飼い犬管理システムによる情報管理を行い、平成23年3月31日現在の登録件数は9,024頭の登録がある。なお、平成22年度の新規登録件数は669頭、狂犬病予防注射件数5,828頭（うち獣医師等による接種頭数3,809頭）であった。

2 犬及び猫の不妊手術費等の助成

犬や猫の適正飼育を図るため、不妊手術費等の一部助成を行った。

区分	犬雄	犬雌	猫雄	猫雌	計
補助基準額	3,000円	4,000円	2,500円	3,500円	—
補助件数	63件	83件	114件	177件	437件
補助金額	189,000円	332,000円	285,000円	619,500円	1,425,500円

○ ごみ関係

1 「伊勢市ごみ処理基本計画」の推進

ごみ処理に係る施策方針などについてまとめた「伊勢市ごみ処理基本計画」の推進に係り、平成22年11月11日、伊勢市廃棄物減量等推進審議会から「行政ごみの排出削減等の取組方針について（提案）」が提出された。これを元に、各所属に対し、排出ごみの減量化・資源化について検討を呼びかけた。

なお、伊勢市廃棄物減量等推進審議会は、伊勢市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例第8条第1項の規定に基づき設置している。

伊勢市廃棄物減量等推進審議会委員 会長：中松豊（皇學館大学准教授）、副会長：宮岡邦任（三重大学准教授）、その他委員：市民の代表2人、事業者等の代表4人、地域住民組織の代表3人、再生資源事業者の代表2人、関係行政機関の職員1人。

2 災害廃棄物処理計画

市の災害廃棄物処理担当者が、災害発生時の状況に則して、災害廃棄物の処理に関する具体的な業務内容を示すことにより、災害廃棄物処理の適正かつ円滑な処理の実施を図ることを目的として、災害廃棄物処理計画を策定した。

3 合併調整に係るごみ処理の統一化の検討

平成17年11月1日の市町村合併後、5年間において統一を目指すごみの排出方法回収等について各地域との調整を進めた。併せて旧伊勢市、御菌町での燃えるごみの集積化を進めた。

4 ごみの適正処理

(1) ごみ排出量及び処理経費

ごみの減量・資源化のための分別収集を推進した結果、過去5年間のごみ排出量及び過去3年間の処理経費の推移は次のとおりであった。

①過去5年間のごみ排出量の推移

年 度	18年度	19年度	対前年度増減	20年度	対前年度増減	21年度	対前年度増減	22年度	対前年度増減
燃えるごみ	46,643 ^t	44,655 ^t	△4.3 [%]	44,594 ^t	△0.1 [%]	44,015 ^t	△1.3 [%]	42,426 ^t	△3.6 [%]
粗大ごみ	2,267	2,080	△8.2	1,988	△4.4	1,618	△18.6	1,459	△9.8
小 計	48,910	46,735	△4.4	46,582	△0.3	45,633	△2.0	43,885	△3.8
資 源 物	7,821	7,720	△1.3	6,977	△9.6	6,608	△5.3	6,303	△4.6
缶・金属類	1,855	1,310	△29.4	1,335	1.9	1,389	4.0	1,166	△16.1
投棄場搬入量	974	986	1.2	888	△9.9	955	7.5	933	△2.3
合 計	59,560	56,751	△4.7	55,782	△1.7	54,585	△2.1	52,287	△4.2

(注1) 対前年度増減(%) = (当該年度 - 前年度) / 前年度 × 100

(注2) 缶・金属類は、平成21年度末まで金属・その他として回収していたものであるが、名称変更し資源物として回収することとなった。

②ごみの各平均排出量

年 度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
各年度末人口 (人)	135,944	135,507	134,870	134,049	133,527
各年度末世帯数 (世帯)	52,523	52,295	53,255	53,406	53,690
総ごみ排出量 (t)	59,560	56,751	55,782	54,585	52,287
1日平均排出量 (t/日)	163.18	155.48	153.83	149.54	143.25
1日1人平均排出量 (g/人・日)	1,200.3	1,147.4	1,133.1	1,115.6	1,072.8
1日1世帯平均排出量 (g/世帯・日)	3,106.8	2,973.2	2,869.7	2,800.2	2,668.1

(注) 各年度末人口・世帯数は町別統計（住民基本台帳と外国人登録）を引用。

③処理経費の推移

年 度	19年度	20年度	21年度	22年度
処 理 経 費	円 1,625,423,000	円 1,615,583,000	円 1,741,906,000	円 1,796,480,000
ごみ1t当りの経費	28,641	28,962	31,912	34,358
1人当りの経費	11,995	11,979	12,995	13,454
1世帯当りの経費	31,082	30,337	32,616	33,460

(注) 処理経費は、毎年度環境省が実施している一般廃棄物処理事業実態調査で報告した数値。

(人件費、収集運搬・最終処分等に係る処理費、車両等購入費、ごみ処理委託料、組合分担金、各種委員会経費・補助金等に係るその他の経費を合算したもの。)

(2) 資源物の回収量及び売却額

市内に設置した資源ステーション・資源拠点ステーション等で資源物の分別収集を行い、伊勢広域環境組合等の中間処理施設を経由し、ごみの資源化を図った。また、回収量（資源化量）の推移は、次のとおりであった。

①資源びん

年 度	回収量及び売却額	無 色	茶 色	その他の色	計
20年度	回収量(kg)	495,060	431,370	150,610	1,077,040
	売却額(円)	259,906	226,469	△100,909	385,466
21年度	回収量(kg)	471,540	409,390	158,660	1,039,590
	売却額(円)	495,117	214,930	△189,757	520,290
22年度	回収量(kg)	505,490	398,740	160,100	1,064,330
	売却額(円)	530,765	209,339	△197,724	542,380

(注) 売却額△表示は、委託単価(逆有償)を示す。また、回収量には、リサイクルプラザへの直接持込分も含む。

②紙類等

年度	回収量 及び 売却額	新聞	雑誌類	段ボール	紙パック		布・衣類	計
					(1ℓ)	(200ml)		
20 年度	回収量 (kg)	1,375,280	1,708,660	877,140	32,420	670	88,770	4,082,940
	売却額 (円)	14,785,438	12,053,542	7,892,931	188,183	670	85,909	35,006,673
21 年度	回収量 (kg)	1,156,840	1,611,070	844,620	30,190	70	152,670	3,795,460
	売却額 (円)	4,853,032	3,627,690	2,816,914	194,003	82	161,112	11,652,833
22 年度	回収量 (kg)	1,122,930	1,332,770	750,950	27,690	0	182,740	3,417,080
	売却額 (円)	7,431,156	9,286,664	5,561,740	258,383	0	285,385	22,823,328

(注) 布・衣類は、平成20年度は綿製品のみ

③ペットボトル

年度	回収量	売却額	売却先
20年度	kg 335,382	円 8,803,777	(有) シーピーアール
21年度	327,170	2,518,577	(有) ジェイピー化工 (有) シーピーアール
22年度	324,320	10,573,648	(有) ジェイピー化工 (株) クリンテック

④プラスチック製容器包装

年度	回収量	委託料	委託先
20年度	kg 1,006,760	円 3,024,308	(有) 山川商事
21年度	974,870	3,202,448	(有) 山川商事
22年度	988,080	1,576,976	三重中央開発(株)

⑤ガラス・くずびん類

年度	回収量	再商品化委託料	委託先
20年度	kg 131,910	円 1,800,572	(株) ヤマムラ
21年度	138,830	1,851,298	トーエイ(株)
22年度	146,430	1,845,018	(株) ヤマムラ

(注) ガラス類とはガラス製の食器・板ガラス・割れた資源びん(資源びんを除く)

⑥陶磁器類

年 度	回収量	再商品化委託料	委 託 先
20 年度	kg 197,230	円 4,763,105	(株) ヤマムラ
21 年度	210,160	4,411,048	トーエイ (株)
22 年度	255,870	5,077,740	(株) ヤマムラ

⑦資源化率の推移

年 度	20 年度	21 年度	22 年度
資源化率 (%)	18.69	18.70	18.68

(注) 資源化率 (%) = (再生資源回収団体の資源回収量 + 市の資源回収量) / (再生資源回収団体の資源回収量 + ごみ総排出量) × 100

市の資源回収量 = (市で回収した資源物量) + (粗大ごみ処理施設で選別した鉄・アルミ回収量)

5 3Rの推進

(1) マイバッグ持参・レジ袋有料化の取り組み

地球温暖化防止と循環型社会構築を目指し、市民・事業者・行政が連携・協力して、マイバッグ持参運動を推進するためにレジ袋有料化の取り組みを行った。また、そのレジ袋の収益金は、環境活動助成金として環境活動を行う団体に交付し環境活動に役立てた。なお、助成金交付にあたっては、公開審査会を開催し、応募団体の事業を審査して決定した。

①ええやんか！マイバッグ（レジ袋有料化）検討会の開催

平成 22 年 7 月 27 日（火）

検討会参加団体 スーパーマーケット事業者（8 事業者）、ドラッグストア事業者（3 事業者）、伊勢市商店街連合会、市民団体（6 団体）、協力団体（3 団体）

②レジ袋有料化の啓発活動の実施

平成 22 年 10 月 10 日（日）

内 容 環境フェアにて、ええやんか！マイバッグ（レジ袋有料化）検討会活動の展示

③「ええやんか！環境活動助成金」審査会の開催

と き 平成 23 年 2 月 13 日（日）

と ころ いせ市民活動センター

○申請者 9 団体 ○助成決定 9 団体

(2) 指定袋制度運営事業

ごみの減量及び資源化を推進するため、燃えるごみの指定ごみ袋制を実施した。指定ごみ袋への広告掲載を実施し、財源の確保に努めた。(広告掲載件数 11 件、収入金額 620,000 円)

①種類 3種類(大袋 45ℓ、中袋 30ℓ、小袋 15ℓ) 1袋:10枚入
高密度ポリエチレン製、半透明

②販売方法 「伊勢市指定ごみ袋販売店」にて販売
(平成 23 年 3 月 31 日現在 販売店登録数 317 店舗)

③販売価格 希望小売価格制度にて販売
市の提示する希望小売価格(大袋 75 円、中袋 54 円、小袋 37 円:税別)

④委託関係

施行場所	委託名	委託概要	金額	着手	完了
伊勢市地内	伊勢市指定ごみ袋納入業務委託	伊勢市指定ごみ袋の納入、保管、配送、受け払い、配送量報告及び数量管理報告業務	大袋 59.6 円 ×591,000 袋 中袋 41.8 円 ×185,950 袋 小袋 28.6 円 ×85,300 袋 計 47,707,687 円	22. 1. 27	24. 3. 31

(注) 2 箇年の単価契約

(3) ごみ減量化容器設置補助金事業

生ごみの自家処理を促進し、ごみの減量化を図ることを目的に、ごみ減量化容器を購入及び設置した者に対し補助金を交付した。

年度	交付申請件数	補助金交付基数	補助金交付額
20 年度	200 件	215 基	4,901,500 円
21 年度	137	139	3,469,500
22 年度	126	135	2,956,700

(4) 廃食用油回収事業

地球温暖化防止と循環型社会の形成のため、ごみの減量化、資源化の推進事業として、市内全域を対象に廃食用油を回収し、再生利用を行った。

①廃食用油回収容器設置場所 38 箇所(拠点ステーション・公共施設ほか)

②公共施設 44 箇所(小・中学校、中学校給食共同調理場ほか)

③回収状況

年度	廃食用油回収量(ℓ)
21 年度	21,978
22 年度	26,926

(5) 事業系燃えるごみ組成調査委託業務

事業者からの排出ごみの減量化・資源化を推進のための的確な実施プランを検討するため、事業者が排出する燃えるごみに関して、以下のとおり調査を実施した。

①排出ごみの組成等分析調査

市内の飲食業者、旅館・ホテル業者、総合食品小売業者合計 10 社に協力依頼し、排出された燃えるごみを店舗ごとに、三成分、高低位発熱量、組成について調査分析を行なった。

②燃えるごみの減量・資源化に対するアンケート調査

市内の飲食業者、旅館・ホテル業者、総合食品小売業者約 1,000 社に対し、燃えるごみの減量・資源化に関するアンケート調査を行なった。

また、①及び②の調査結果等についてまとめた報告書を作成した。

6 排出環境の整備

(1) 資源拠点ステーション設置事業

資源ごみの分別回収の充実に伴い、回収日まで家庭での保管を緩和することと、ごみの減量・資源化を更に推進するため、資源拠点ステーションを設置した。

①整備状況

整備年度	施設名	施設規模	所在地
20 年度	早修資源拠点ステーション	m ² 58.38	常磐 1 丁目 1054-1
21 年度	二見資源拠点ステーション	159.72	二見町三津 1201-71
	小俣資源拠点ステーション	77.30	小俣町本町 498
	御菌資源拠点ステーション	318.00	御菌町小林 1595
22 年度	明野資源拠点ステーション	431.13	小俣町新村 325-2、326

②工事関係

施行場所	工事名	工事概要	金額	着工	完工
小俣町新村 地 内	(注) 明野資源拠点ステーション設置工事	資源置場 2 棟 (5 連棟、3 連棟) 詰所 1 棟 外構工事 一式 給排水設備工事 一式 電気設備工事 一式	円 5,713,050	22.11.26	23. 2. 3

(注) 建築住宅課施行

(2) 資源ステーション設置事業

資源ごみの分別回収の充実に伴い、資源ステーションの環境整備を行った。

① 工事関係

施行場所	工事名	工事概要	金額	着工	完工
小俣町本町地内	(注) 東本町・北本町 資源ステーション移設工事	資源ステーション移設一式	円 651,000	22. 6. 28	22. 7. 27
〃	(注) 南本町資源ステーション移設工事	資源ステーション移設一式	903,000	22. 11. 16	22. 12. 15
岩淵1丁目地内	資源ステーション設置工事	既設フェンス、立木撤去 フェンス工 L=9.7m 土間コンクリート打設	924,000	22. 11. 24	22. 12. 16
倭町地内	倭町資源ステーション設置工事	既設ガードパイプ撤去 プレハブ倉庫 1棟	546,000	23. 1. 11	23. 3. 4
小俣町元町地内	小俣資源ステーション設置工事	フェンス工 L=10.9m プレハブ倉庫 1棟 ごみ収納庫 2連棟	1,296,750	23. 1. 17	23. 3. 9
計	5件	—	4,320,750	—	—

(注) 建築住宅課施行

② 備品購入

施行場所	物品名	購入概要	金額	着手	完了
御菌町小林地内	鋼製物置	プレハブ倉庫 1棟 延床面積 6.74 m ²	円 617,400	23. 1. 20	23. 2. 28
二見町荘地内		プレハブ倉庫 1棟 延床面積 6.74 m ²			
東大淀町地内	鋼製物置及びごみ収納庫	プレハブ倉庫 1棟 延床面積 6.74 m ² ごみ収納庫 2連棟 延床面積 9.69 m ²	773,850	23. 2. 9	23. 3. 16
計	2件	—	1,391,250	—	—

(3) 廃棄物集積所設置補助事業

燃えるごみの排出場所の集積化を促進し、ごみ収集の効率化を図るとともに、ごみの散乱を防止し、市民の美化意識の高揚を図ることにより、市民の良好な生活環境を確保すること目的として、廃棄物集積所を設置した自治会等に対し補助金を交付した。

年 度	交付申請件数	補助金交付基数	補助金交付額
20年度	件 34	基 133	円 17,234,000
21年度	87	300	61,464,806
22年度	202	1,277	260,204,581

(注) 利用世帯数に応じて補助金限度額の設定をして実施した。

(4) 廃棄物投棄場管理事業

①搬入状況

市民自己搬入分と公共関係搬入分として下記の搬入状況となった。

区 分	伊勢		二見		小俣		御菌		計	
	車数	搬入量	車数	搬入量	車数	搬入量	車数	搬入量	車数	搬入量
市民自己搬入分	車 121	kg 75,500	車 55	kg 8,250	車 219	kg 59,420	車 17	kg 5,680	車 412	kg 148,850
公共関係搬入分	762	548,000	11	5,250	51	74,370	80	156,720	904	784,340
計	883	623,500	66	13,500	270	133,790	97	162,400	1,316	933,190

②廃棄物投棄場使用（搬入）許可件数

区 分	伊勢		二見		小俣		御菌		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
許可証交付	件 85	円 106,010	件 41	円 33,000	件 219	円 145,400	件 15	円 10,850	件 360	円 295,260
計	85	106,010	41	33,000	219	145,400	15	10,850	360	295,260

③委託関係

埋立廃棄物の減量・資源化を推進、廃棄物投棄場を適正管理するために下記の事業を行った。

施行場所	委託名	委託概要	金 額	着 手	完 了
朝熊町 地内ほか	伊勢市廃棄物投棄場の地下水等水質調査	10箇所	円 1,396,500	22.12.13	23.1.27
朝熊町 地内	ガレキ類再資源化業務委託	引取量 ガレキ類 57.16t 瓦類 35.28t	550,351	23.2.9	23.2.24
計	2件	—	1,946,851	—	—

④備品購入

施行場所	物品名	購入概要	金額	着手	完了
朝熊町 地内	可搬式小型トラックスケール	最大計量値 4,000Kg以上 載台寸法 2,000mm× 4,000mm×195mm以上	円 2,278,500	23. 1.26	23. 3.18

7 啓発・教育の推進

(1) 廃棄物減量等推進員の配置

市と市民をつなぐパイプ役として、また地域のリーダーとして171自治会より推薦された374名を廃棄物減量等推進員として委嘱し、推進員業務研修を行い、ごみ減量、リサイクルの普及・啓発、ごみの分別・出し方の指導等の役割を依頼した。

(2) 再生資源回収事業奨励金

ごみの減量化を促進し、資源の再生化を図るとともに、ごみに対する市民の意識を高めることを目的に、自治会・PTA等再生資源の回収事業を行う団体に対し、奨励金を交付した。

年度	登録 団体数	交付 団体数	回 収 量					奨励金 交付額
			紙 類	布 類	缶 類	計	び ん	
20年度	団体 163	団体 133	kg 2,744,867	kg 35,304	kg 64,189	kg 2,844,360	本 11,061	円 17,099,080
21年度	163	139	2,634,908	45,140	73,174	2,753,222	9,411	16,547,660
22年度	172	150	2,844,701	48,980	69,230	2,962,911	6,080	17,795,490

(注) 1kg当たり6円、リターナブルびんについては1本当たり3円の奨励金を交付した。

(3) ごみの分別等についての説明会の実施

希望する団体(自治会等)を対象に伊勢市のごみの現状及びごみの分け方・出し方について説明会を実施した。また、廃食油の再資源化の説明会を行った。

(説明会開催回数 延べ19回、参加人員 延べ565人)

(4) ごみカレンダーの作成

全地区統一の冊子形式であった平成22年度版ごみカレンダーをより見やすいものにするため、地区別(22地区)にごみ収集日を記載したポスター形式の「平成23年度版ごみカレンダー」を作成し、広報いせ3月1日号と同時に全戸に配布した。

(23年度版作成部数 ごみ収集日カレンダー65,000部、ごみの分け方・出し方65,000部の2種類合計 130,000部)

また、ごみカレンダーへの広告掲載を実施し、財源の確保に努めた。(広告掲載件数28件、収入金額840,000円)

○ 伊勢広域環境組合

伊勢市、玉城町、明和町、度会町の1市3町で構成する伊勢広域環境組合で、し尿等処理、火葬業務及びごみの適正処理を衛生的、効率的に行った。

1 22年度分担金内訳

区 分	伊 勢 市 分				備 考
	し 尿	斎 場	ご み	計	
共通経費	千円 3,001	千円 470	千円 5,921	千円 9,392	平等割 10% 加入事務数割 90%
運営経費	216,234	33,887	426,714	676,835	実績割 100%
建設経費	25,676	1,230	132,926	159,832	平等割 10%、人口割 90%
公債費	8,679	—	121,902	130,581	元利補給金
清掃事業所負担金	—	—	1,400	1,400	
計	253,590	35,587	688,863	978,040	

2 22年度クリーンセンター し尿・浄化槽汚泥投入量及び処分量

月分	伊 勢 市 分	他 町 分	計
4	0 4,268,170	0 903,240	0 5,171,410
5	4,038,250	871,900	4,910,150
6	4,786,390	971,210	5,757,600
7	4,527,270	924,550	5,451,820
8	3,994,060	802,050	4,796,110
9	3,880,920	814,950	4,695,870
10	4,321,960	888,510	5,210,470
11	4,249,890	713,610	4,963,500
12	4,719,600	862,640	5,582,240
1	3,463,310	666,720	4,130,030
2	4,131,880	769,460	4,901,340
3	4,877,140	967,680	5,844,820
計	51,258,840	10,156,520	61,415,360

3 年度別クリーンセンター処理実績の推移

区 分	20 年度	21 年度	22 年度
伊勢市分	K0 55,315	K0 52,738	K0 51,259
他 町 分	10,441	11,655	10,157
計	65,756	64,393	61,416

※市内し尿収集運搬業・浄化槽清掃業許可業者数 10 業者、許可車両台数 32 台（浄化槽専用 4 台）

4 22年度斎場利用状況

区 分	市内	管内他町	管外	計
12歳以上の者	1,383 件	458 件	69 件	1,910 件
12歳未満の者	3	1	0	4
死産児	20	10	6	36
計	1,406	469	75	1,950
胞衣汚物	47	1	0	48
霊安室利用	7	0	0	7

5 年度別斎場利用実績の推移（胞衣汚物及び霊安室利用を除く。）

区 分	20年度	21年度	22年度
市 内	1,251 件	1,289 件	1,406 件
管内他町	414	456	469
管 外	59	76	75
計	1,724	1,821	1,950

清 掃 課

1 収集概要

市内の一般廃棄物（燃えるごみ、資源物、粗大ごみ及び小動物の死体）を車両 50 台、収集人員 77 名の体制（一部民間委託）で収集を行った。収集した一般廃棄物については、4 市町で構成する伊勢広域環境組合、古紙業者及び民間業者へ搬入し処理を行った。

また、ハッピーマンデー（年 4 回：海の日、敬老の日、体育の日、成人の日）、年末（12 月 30 日）について臨時収集を行った。

2 収集体制

(1) 収集車両

市内の一般廃棄物（燃えるごみ、資源物、粗大ごみ及び小動物の死体）の収集を 50 台の車両で行った。また、資源物（缶・金属類）の回収容器配置用の車両として、4 台のリース車両を使用した。

・保有車両

4 t パッカー	3 t パッカー	2 t パッカー	2 t ダンプ	2 t パワー リフト
2 台	7 台	22 台	4 台	3 台

2 t トラック	1 t トラック	軽 四 ダンプ	軽 四 トラック	計
3 台	2 台	6 台	1 台	50 台

・リース車両

2 t トラック
4 台

(2) 車両及び財産の売却

収集コースの見直しや収集基地の集約に伴い、不要となった車両や財産をインターネットオークション及び入札に基づき売却を行った。

種 別	金 額
5 t パッカー	2,205,000 円
2 t パッカー	1,539,000
2 t パッカー	836,200
1 t トラック	53,000
小型特殊四輪車	73,500
ペットボトル減容機	84,000
計	4,790,700

(3) 収集人員

一般廃棄物（燃えるごみ、資源物、粗大ごみ及び小動物の死体）の収集を 77 名の人員で行った。

職員	嘱託職員	計
名 74	名 3	名 77

(4) 委託関係

市内のうち、旧伊勢市地区については資源物の収集補助を伊勢市シルバー人材センター、粗大ごみ収集の一部を民間業者に委託、資源びん、紙・布類（新聞・折込チラシ、雑誌・雑紙類、段ボール、飲料用紙パック、布・衣類）及びプラスチック製容器包装の収集は、下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法により定めた合理化事業計画（旧伊勢市地区）に基づき、旧伊勢市地内の 3 業者に収集運搬の業務を委託した。

小俣町地区については資源びん、紙・布類、プラスチック製容器包装、ペットボトル、ガラス・くずびん類及び陶磁器類の収集を、下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法により定めた合理化事業計画（伊勢市小俣町地区）に基づき、小俣町地内の 2 業者に収集運搬の業務を委託した。

御菌町地区については燃えるごみ、缶・金属類、ペットボトルの収集を民間業者に委託、10 月より資源びん、紙・布類、プラスチック製容器包装、ガラス・くずびん類及び陶磁器類の収集を、下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法により定めた合理化事業計画（伊勢市御菌町地区）に基づき、御菌町地内の 1 業者に収集運搬の業務を委託した。

施行場所	委 託 名	委託概要	金 額	着 手	完 了
伊 勢 市 内 地	町内一斉粗大ごみ 収集運搬業務委託	町内一斉粗大ごみ 収集運搬業務委託 一式	円 1,524,600	22. 4. 1	23. 3. 31
旧 伊 勢 市 内 地	資源物回収等業務委託	資源物の回収容器 の設置、回収容器 の洗浄及び補修業 務委託 一式	11,264,264	22. 4. 1	23. 3. 31
”	資源物収集運搬 (その1) 業務委託	資源物(資源びん、 紙・布類、プラス チック製容器包 装) 収集運搬業務 委託 一式	63,815,850	22. 4. 1	23. 3. 31
”	資源物収集運搬 (その2) 業務委託	資源物(資源びん、 紙・布類) 収集運 搬業務委託 一式	33,966,450	22. 4. 1	23. 3. 31
”	資源物収集運搬 (その3) 業務委託	資源物(プラスチ ック製容器包装) 収集運搬業務委託 一式	33,133,800	22. 4. 1	23. 3. 31
小 俣 町 内 地	資源物収集運搬 (その4) 業務委託	資源物(プラスチ ック製容器包装、 紙類、ペットボト ル) 収集運搬業務 委託 一式	12,328,050	22. 4. 1	23. 3. 31
”	資源物収集運搬 (その5) 業務委託	資源物(資源びん、 布類、ガラス・く ずびん類、陶磁器 類、プラスチック 製容器包装回収袋 配置、ペットボト ル回収袋配置) 収 集運搬業務委託 一式	6,945,750	22. 4. 1	23. 3. 31
御 菌 町 内 地	御菌地区一般廃棄物 収集運搬業務委託	燃えるごみ、缶・金 属類及びペットボ トル収集運搬業務 委託 一式	14,551,000	22. 4. 1	23. 3. 31

施行場所	委 託 名	委託概要	金 額	着 手	完 了
御 菌 町 地 内	資源物収集運搬 (その6) 業務委託	資源物(資源びん、 紙・布類、プラスチ ック製容器包装、ガ ラス・くずびん類、 陶磁器類)収集運搬 業務委託 一式	円 3,675,000	22.10.1	23.3.31
計	9 件	—	181,204,764	—	—

(5) 工事関係

収集基地の集約に伴い、不要な施設として二見美化センターの不燃物処理場及び小俣湯田野倉庫の解体工事を行った。

また、利用者の利便性の向上を図るため、城田資源拠点ステーションについては、ステーション前の道路の拡幅に合わせ移設工事を行い、小俣資源拠点ステーションについては、敷地内の舗装工事を行った。

資源ステーションについては宮本地区及び小俣地区の各一箇所で、移設のため整備工事を行った。

施行場所	工 事 名	工事概要	金 額	着 工	完 工
二 見 町 三 津 地 内	(注1) 二見美化センター不燃 物処理場解体工事	鉄骨造 平屋建 55.00 m ²	円 1,850,100	22.10.22	22.12.10
小 俣 町 本 町 地 内	(注1) 小俣湯田野倉庫解体工 事	鉄骨造、木造 平屋建 215.40 m ²	5,001,150	22.11.19	22.12.21
中 須 町 地 内	(注1) 城田資源拠点ステーシ ョン移設工事	資源拠点ステーシ ョン移設工事 一式	6,522,600	22.11.26	23.3.15
小 俣 町 本 町 地 内	(注2) 小俣湯田野倉庫跡舗装 工事	舗装工 343.00 m ²	1,918,350	22.12.10	23.3.2
藤 里 町 地 内	宮本地区資源ステーシ ョン整備工事	コンクリート土間 及びブロック設置 工 一式	99,750	23.3.14	23.3.30
小 俣 町 元 町 地 内	小俣地区資源ステーシ ョン(2-29) 整備工事	資源物保管庫移設 工 一式	189,000	23.3.23	23.3.31
計	6 件	—	15,580,950	—	—

(注1) 建築住宅課施行

(注2) 交通政策課施行

3 燃えるごみ、粗大ごみの収集状況

燃えるごみの収集について、市内全域を2地区（月・木曜日地区、火・金曜日地区）に分け、旧伊勢市地区、二見町地区及び小俣町地区を17コース（2tパッカー車16コース、軽トラック1コース）にて週2回収集を行った。御菌町地区については民間業者への委託により同様に週2回収集を行った。

有料収集については、戸別に粗大ごみ等の収集を行った。

町内一斉粗大ごみ収集については、市内各自治会（区）の要請により年1回（33日間）収集を行った。

早朝清掃、ボランティア清掃等に伴い発生するごみについては、随時収集を行った。

燃えるごみ		粗大ごみ		計	
延べ収集車数	収集量	延べ収集車数	収集量	延べ収集車数	収集量
車 17,844	kg 26,318,380	車 274	kg 243,480	車 18,118	kg 26,561,860

4 資源物の収集状況

缶・金属類、資源びん、紙・布類（新聞・折込チラシ、雑誌・雑紙類、段ボール、飲料用紙パック、布・衣類）、ペットボトル、プラスチック製容器包装について市内全域で22地区（旧伊勢市地区16、二見町地区2、小俣町地区2、御菌町地区2）に分け、998箇所の資源ステーションを設置し、缶・金属類は月2回、プラスチック製容器包装は週1回、ガラス・くずびん類は月1回、資源びん、紙・布類、ペットボトルは旧伊勢市地区では月1回、二見町地区、小俣町地区、御菌町地区では月2回収集を行った。

区分	缶・金属類	資源びん	新聞・折込チラシ	雑誌・雑紙類
収集量	kg 939,300	kg 1,139,730	kg 1,122,930	kg 1,332,770

段ボール	飲料用紙パック	布・衣類	ペットボトル	プラスチック製容器包装
kg 750,950	kg 27,690	kg 182,740	kg 319,930	kg 1,163,510

ガラス・くずびん類	陶磁器類	乾電池	蛍光管	計
kg 146,430	kg 255,870	(注) kg 59,520	kg 42,985	kg 7,484,355

(注) 乾電池については、伊勢広域環境組合への市民からの直接搬入分を含む。

5 資源拠点ステーションの開設状況

資源物の収集効率の向上を図るため、資源拠点ステーションを平成14年度から順次開設している。開設状況としては、平成22年度末現在で19箇所開設（伊勢中央・宇治・船江・城田・中島・佐八・明倫・神社・厚生・早修・北浜・宮本・沼木・大湊・東豊浜・いせトピア・二見・小俣及び御菌）しており、支所での管理のほか、伊勢市シルバー人材センター及び地元自治会にステーションでの受付等の業務を委託した。

(1) 委託関係

施行場所	委託名	委託概要	金額	着手	完了
船江4丁目 地内ほか	資源拠点ステーション 受付等業務委託	資源物受付及び搬 入車両誘導等業務 一式	円 4,050,153	22. 4. 1	23. 3. 31
宮後2丁目 地内	伊勢中央資源拠点ステ ーション受付等業務委 託	資源物受付及び搬 入車両誘導等業務 一式	1,100,000	22. 4. 1	23. 3. 31
宇治浦田 2丁目 地内	宇治資源拠点ステ ーション受付等業務委 託	資源物受付及び搬 入車両誘導等業務 一式	500,000	22. 4. 1	23. 3. 31
中須町 地内	城田資源拠点ステ ーション受付等業務委 託	資源物受付及び搬 入車両誘導等業務 一式	500,000	22. 4. 1	23. 3. 31
二見町三 津 地内	二見資源拠点ステ ーション受付等業務委 託	資源物受付及び搬 入車両誘導等業務 一式	500,000	22. 4. 1	23. 3. 31
小俣町本 町 地内	小俣資源拠点ステ ーション受付等業務委 託	資源物受付及び搬 入車両誘導等業務 一式	118,900	22. 4. 1	22. 5. 31
〃	小俣資源拠点ステ ーション受付等業務委 託 (その2)	資源物受付及び搬 入車両誘導等業務 一式	1,710,342	22. 6. 1	23. 3. 31
大湊町 地内	大湊資源拠点ステ ーション受付等業務委 託	資源物受付及び搬 入車両誘導等業務 一式	885,960	22.10.20	23. 3. 30
計	8件	—	9,365,355	—	—

6 一般廃棄物処理手数料

(1) 粗大ごみ等の有料収集手数料として 625 件、2,160,600 円を徴収した。

また、猫等の小動物 201 体の死体収集を行い、そのうちペットとして飼われていた 64 体については、1 体につき 1,050 円の手数料として、67,200 円を徴収した。

区分	手数料	
	件数	金額
有料収集	件 625	円 2,160,600
小動物の死体	64	67,200
合計	689	2,227,800

(2) 火災被害者 3 件、水害被害者 1 件の収集については、一般廃棄物処理手数料の免除を行った。

区分	火災被害者	水害被害者	計
件数	件 3	件 1	件 4

7 じん芥収集車両掲載広告事業

新たな財源の確保及び事業経費の削減を図るため、平成 21 年度より広告主の募集を行い、じん芥収集車に企業広告を掲載している。今年度は募集の結果、新規に 2 社より掲載の申し込みがあり、3 台のじん芥収集車に広告掲載を行った。これにより前年度より継続のものと合わせて 5 社の広告を 9 台のじん芥収集車に掲載し、広告掲載料金（年間）として合計 1,440,000 円の収入があった。

広告掲載会社数	広告掲載車両数	広告掲載料金（年間）
社 5	台 9	円 1,440,000

8 伊勢市ふれあい収集事業

一人暮らしで一定以上の介護認定を受けているお年寄りや身体が不自由な方など、燃えるごみや資源物を自ら集積所等まで出すことが困難な家庭に対し、燃えるごみ及び資源物の戸別収集を行うふれあい収集事業を今年度より実施した。

利用希望者の申請をもとに 6 回の審査会を開催し、29 件の審査の結果 15 件の実施を決定した。また審査会の中で、平成 9 年より行っていた視覚障がい者宅収集についても同様に申請をもとに審査を実施し、ふれあい収集事業への移行を行った。